

菅茶山顕彰会会報

第 18 号
発 行

菅茶山顕彰会
2008年3月1日



第15回茶山ポエム絵画展最優秀作品
「ホタル」 神辺小学校6年 藤井賀奈子さん作

廉塾にホタル飛ぶ

「螢七首」のうち(一)

満溪螢火乱昏黄 満溪の螢火 昏黄こんこうに乱る

透竹穿藤各競光 竹に透かし藤を穿ちて 各おの光を競う

吟歩不愁還入夜 吟歩して愁えず 還またた夜に入るを

借將餘照渡山梁 餘照を借り 將もつて山梁を渡る

(「黄葉夕陽村舎詩」後編七所収)

(詩意)

たそがれのころになると、谷一杯に螢が乱舞する。

竹の葉に透けとおり藤の葉をくぐり抜けて、各自に光を競っている。

詩を吟じながら散歩して、夜に入ってもなお心配はいらない。螢の余った明かりを借りて谷川の橋を渡ればいいのだから。

(以上 ポエム資料参考)

この詩は菅茶山六十九歳のときの詩「螢七首」の(一)であり、他の五首とともに書かれた墨書半双屏風は逸品として知られている。

また、この詩はポエム絵画の詩題にもなっており、子供たちにも人気のある詩で、ポエム絵画の作品数も圧倒的に多い。

昨年六月、茶山が愛したホタルを廉塾の水路に飛ばそうという話が持ち上がり、町内の「堂々川ホタル同好会」の協力を得て、まず餌となるカワニナをバケツに三杯放流し、東中条の今信川からホタルの成虫を譲り受けて放ったところ、数日してたくさんホタルの飛翔を見ることができた。

今後は、ホタルの住みやすい環境づくりを工夫して、ホタルの飛び交う廉塾にしていきたいと願っている。

(本会理事 鵜野謙二)